

カリキュラム

機構施設名： 秋田職業能力開発促進センター
実施機関名： 株式会社JMTC

(B)ITスキル・活用	つながるIT業務への理解とIT化のメリット
ホームページ	

コースのねらい	生産活動をITを用いて効率化する上で必要な前提知識である「つながる」ことの重要性と情報とデータの関係を正しく理解する。
---------	---

講義内容	「基本項目」	「主な内容」	訓練時間(H)
	1 つながる業務の重要性	(1)時代に合わせた働き方の変化 1980年代からこれまでの情報通信技術の発達と職種や業種の変化、それに伴う、働き方の変化を紹介 【手法】スライドを用いて全体への講話形式 【狙い】過去を知ることで「これから」の議題へ注意喚起する (2)企業が直面している課題【演習有り】 現在発生している企業課題(採用難、後継者不足、生産性の向上)を説明。今後5年後、10年後の社会を見据えて現在の自社の状況(それらの変化に対応できる準備ができていないか?)を考察・検討する。 【手法】全体へ流れを説明後、グループワークにて意見交換 【狙い】各々が抱えている課題を具現化することで問題点となっている「つながっていない」部分を顕在化するヒントにする。 (3)地域企業の取り組み【事例紹介】 つながる工場」として製造業、「つながる仕事」として介護業、「つながる人」として人材業をそれぞれ事例として取り上げ、IT技を活用してこれからの変化に対応する準備の進め方を紹介。また取り組みを実現させるためのIT技や考え方も解説する。 【手法】スライドを用いて事例紹介 【狙い】実際に取り組んだ事例`課題解決の糸口になったITツールを紹介し、「つながる」ことで課題解決できることを示唆する (4)地域企業の取り組み【演習有り】 情報共有方法の現状と課題を解説。情報と情報をつなげる(見える化)することによる生産性の向上を説明。演習形式で受講者の昨日1日の業務内容をまとめていただき、どんな作業や情報をつなげることで業務改善ができるか、議題を検討してもらう。 【手法】講師説明のあと実際に自身の業務に対する改善案や議題を検討してもらう。 【狙い】情報の連鎖により「見える化」が行われ、問題点や解決策を検討しやすくなる可能性を感じてもらう	4.0
	2 情報とデータの関係	(1)データの重要性 これまで経験の中で蓄積された有形無形のノウハウを次世代に継承していくために必要な情報を「データ化」することで室要性について説明。人材育成の観点からは、仕事の教え方を変えていく必要があることも併せて紹介。 【手法】スライドを用いて事例紹介 【狙い】データを収集することの意味と重要性を着目してもらう (2)データと意味を持ったデータ(情報)の違い データを蓄積するときには、それらを通じて伝えたいことを明確にすることが重要であり、それによってデータが意味を持った「情報」となりえることを説明。併せて、数値の持つ意味を分かりやすく伝えるため、グラフなどで「見える化」する手法も例示。 【手法】スライドを用いて事例紹介 【狙い】意味を持った情報が「つながる」を可能にすることの理解を深める。	1.0
演 習		① 現在の自社の状況の考察推察 ② 自社の改善案・議題	1.0
合計時間			6.0